

錦林だより

Kinrin-s@edu.city.kyoto.jp

臨時号
平成 26 年 10 月 10 日
京都市立錦林小学校
校長 田上 恭史

平成 26 年度全国学力学習状況調査の結果

4 月 22 日、本校 6 年生 83 名（当日欠席者 4 名）を対象に実施された「全国学力調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の 2 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の児童の状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

A（主として知識に関する問題） B（主として活用に関する問題）

国語 A、B、算数 A、B と、どの問題においても全国平均を大きく上回っています。国語も算数も A 問題においては、ほとんどの児童が 8 割以上できています。B 問題においては、正答率の高い児童の割合が高い傾向にありました。

国語科について

A 問題においては、漢字を読むことや書くこと、言葉の意味を理解し正しく使うことはよくできています。しかし、「五十歩百歩」や「百聞は一見にしかず」などの故事成語の意味や使い方を正しく理解しているのは、51～56% という結果でした。

B 問題においては、内容を読み取ったり、表現の工夫をとらえたりする問題では、70～89 パーセントと高い正答率ですが、立場を明確にして質問や意見を書いたり、分かったことや疑問に思ったことを整理して書いたりする問題の正答率は 30～46% と低く、これは、全国的な傾向と同じであり、書く力をさらに伸ばせるよう一層の努力が必要です。

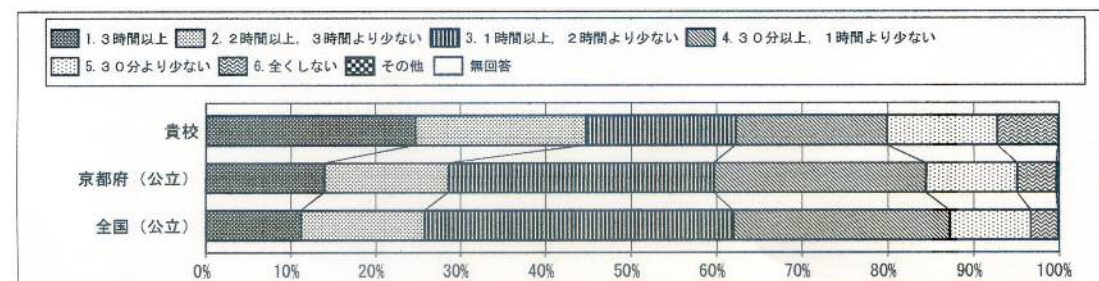
算数科について

A 問題は全体によくできていて、特に「数と計算」の領域は、90% と高い正答率です。それに対して、コンパスを使った平行四辺形の書き方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ図形領域の問題の正答率は、82% と他の領域に比べて低めです。

B 問題でも、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」と、どの領域においても、全国平均を大きく上回って、72～82% の正答率です。さらに詳しく見てみると、数量や図形についての技能は、88% ととても高い正答率でした。数学的な考え方も全国平均より高く 65% の正答率でしたが、それまでに身に付けた知識や技能を活用して、自分で思考する力をつけることが一層必要です。

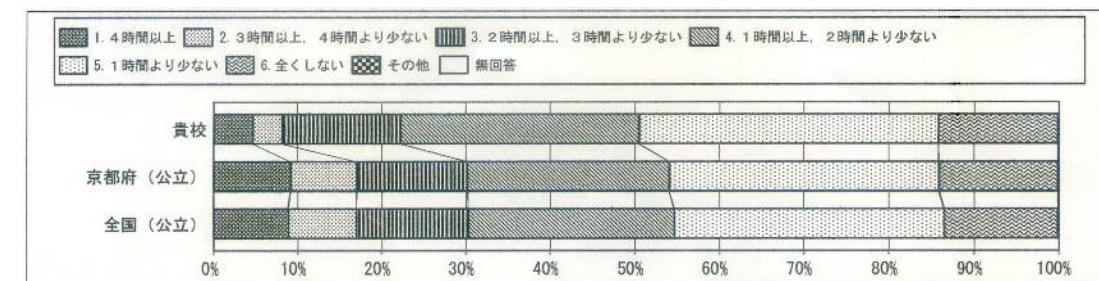
児童質問紙調査より

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



本校では、2 時間以上学習している児童が 45% 程いて全国平均を大きく上回っている反面、30 分より少ない児童が 20% いてその差が大きいことが分かります。

Q 普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



本校では、ゲームを全くしない、または 1 時間より少ない児童が 50%、それに対して 2 時間以上ゲームをしている児童が 22% いることが分かります。ゲームは 1 時間以内で時間を決めてできるようにしたいものです。

保護者の方へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。本校の結果をみると、学力は着実についてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が現れています。また、これまで本校が国語科を中心に学校図書館を活用した学習に取り組んできた成果も現れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。学校においても、今後とも教育活動を前進させていきたいと考えています。

平成26年度前期学校評価結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございました。保護者の皆様からお寄せいただいたアンケートの数は、425で、およそ85%にあたるものでした。

皆様からのご意見、また児童へのアンケート結果、教職員の自校評価をふまえ、継続していくべきところ、改善していくべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

【アンケート方法】

昨年度前期同様、アンケートの項目を

- | | |
|---------------------|--------------------|
| (1) 学校教育に関すること | (2) 子どもの学校生活に関すること |
| (3) 家庭や地域での生活に関すること | (4) 読書・図書館関係に関すること |
| (5) PTA活動に関すること | |

のグループに分け、それぞれの項目につき「重要度—実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度、実現度ともに高い項目は、比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

【アンケート結果より】

～全項目は掲載できませんので、ご了承ください。～

◆「(1) 学校教育に関すること」の実現度について

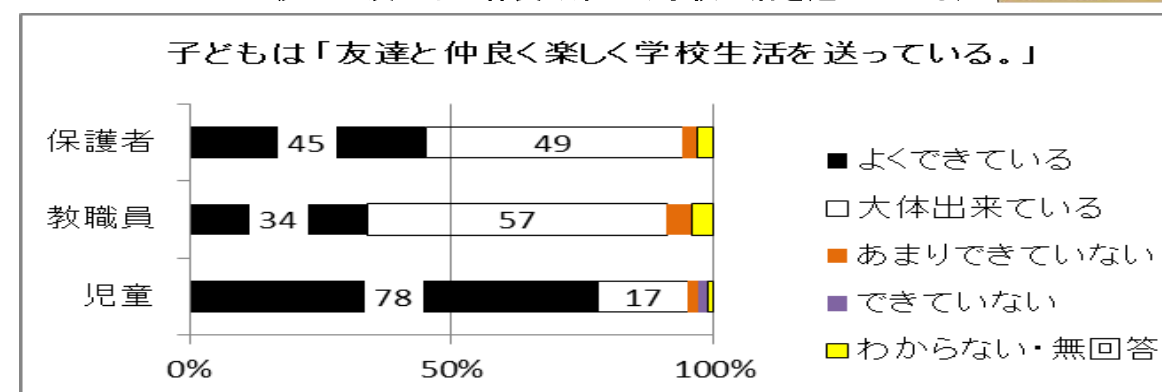
2～5の項目に関しては約80%の保護者の方から「よくできている」、「大体できている。」という評価をいただきました。但し、1の項目では、約33%の方が「教育目標を知らない。」とのお答えをいただきました。また、自由記述欄では設備面や安全面で「夢の楽園（運動場北側の花壇）の活用について」や「門の施錠」などについてのご意見をいただきました。今後とも、錦林校の教育目標「人と地域を大切にし、いきいきと学ぶ子どもの育成」に向けて、教職員一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。

1	学校教育目標を知っている。
2	学校は、教育内容をお便りやホームページで分かりやすく伝えている。
3	教職員は、子ども一人一人を大切にした教育を進めている。
4	教員は、基礎・基本の内容を分かりやすく指導している。
5	教職員は、保護者に対して丁寧に対応している。
6	学校は、常に快適な環境整備に努めている。

◆子どもたち同士の関わりについて

(2)－5 子どもは、友だちと仲良く楽しく学校生活を送っている

(児童：友だちと仲良く楽しく学校生活を送っている)



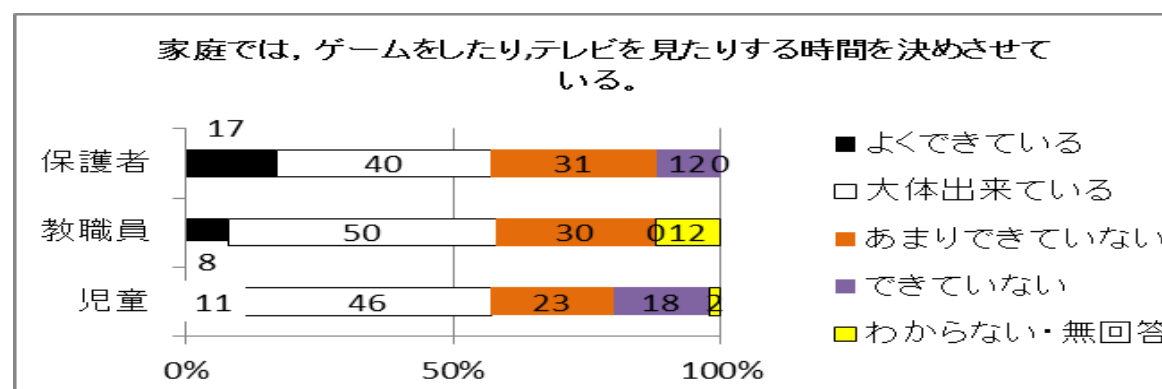
子どもたちにとって学校が楽しいところであって欲しいという願いから、保護者、教職員の重要度が高い項目です。そして、児童が、最も多く「よくできている」をつけた項目でもあります。

保護者からは、「よくできている」「大体できている」を合わせて約94%の解答になりますが、友だちと仲良く楽しく学校生活を送れるように、活動を充実させるとともに課題や問題点に対処していきたいと考えています。また、少数ではありますが、「あまりできていない2.4%」「できていない1.9%」があることを受け止め、仲良く楽しい学校生活を送れるよう、教育活動全体の取組を通して、指導をしていきたいと考えています。

◆実現度が低く、課題と考えられる項目について

(3)－2 家では、ゲームをしたりテレビを見たりする時間を決めている

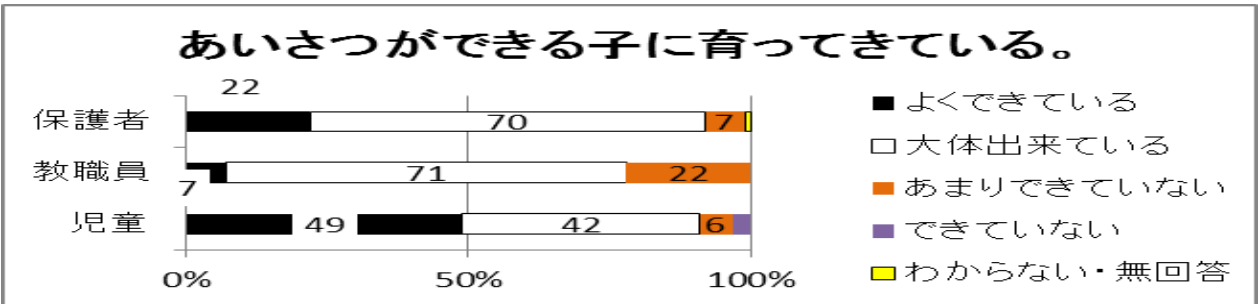
(児童：テレビを見るときやゲームをするときは時間を決めている)



子どもたちの約41%、保護者の約43%が「あまりできていない」「できていない」と回答していました。学校でも生活面、視力等の健康面から指導していきたいと思ひますので、ご家庭でも今一度、テレビやゲームについての時間を確認していただくとともにその功罪についても話し合っただけたらと思ひます。

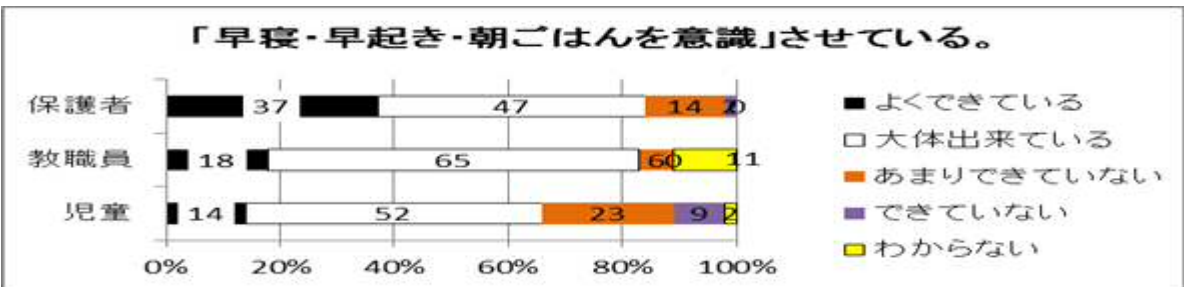
◆児童、保護者、教職員で意識に差のある項目について

(2)－1 あいさつができる子に育ってきている(児童：自分から進んであいさつをしている)



子どもたちの挨拶の様子を見ていますと、登校時や対外的に、しなくてはいけない場面ではしっかりできていますが、「自分から進んで」というところに個人差がみられます。児童に比べて、保護者や教職員の評価が低いのは、そのためだと考えられます。学校では、「あいさつ運動」の取組と同時に日常の挨拶を大切にすること、今後も声を出すことを心地よいと感じられるようにすることにも取り組んでまいります。

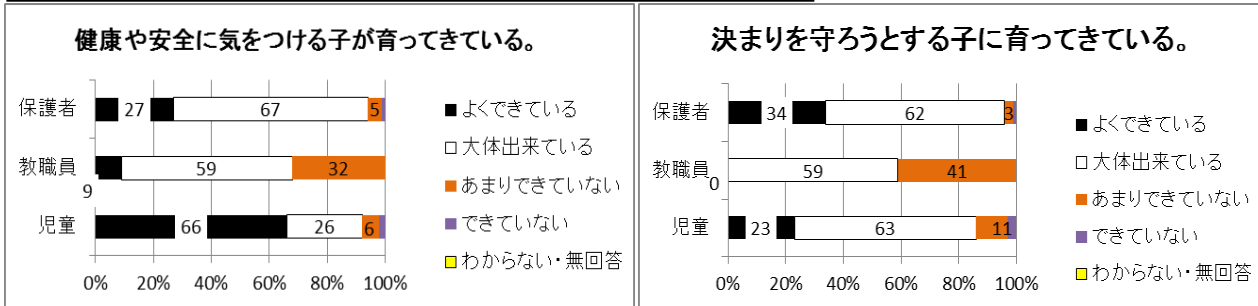
◆基本的な生活習慣に関することの項目について



「早寝・早起き・朝ごはんを意識」の項目では、概ねよくできていますが、高学年になるほど就寝時刻が遅くなり、睡眠時間も短くなっています。睡眠時間が短くて、朝すっきり気分よく起きられないと朝ごはんをしっかりと食べられなくなり、学習や成長にも影響が出ます。「早寝・早起き・朝ごはん」がしっかりできるようによろしくお願いいたします。

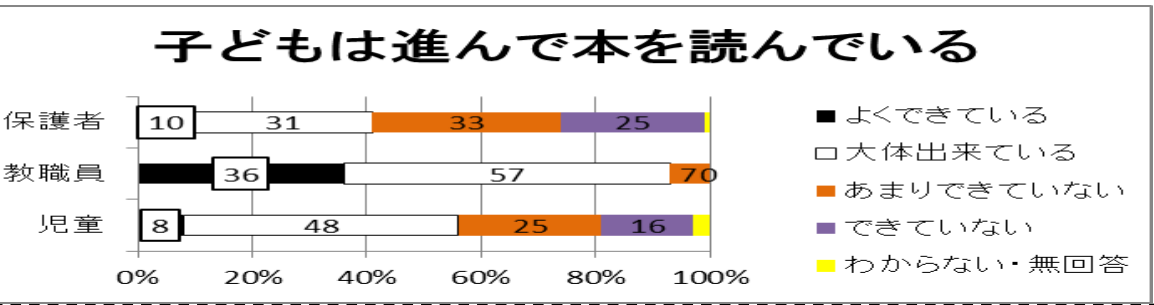
◆京都市の「学校教育の重点」に関わる項目について

- (2)－3 健康や安全に気をつける子に育ってきている
- (2)－4 決まりを守ろうとする子に育ってきている



これらの項目は、今年度の京都市の学校教育の重点「規律ある生活習慣、ルールを守る態度の育成」と重なります。どちらも「よくできている」「大体できている」を合わせると実現度は高い方ですが、大人と子どもとの意識の差もみられ気にかかるところです。また、教職員は学校全体の子のことを思い浮かべて回答しているので、保護者や児童の回答より厳しいように感じます。一回の不注意が大きな事故や怪我につながることもあります。学校では「大体」で満足せずに繰り返し指導し、指導するべきは指導しきるという姿勢で臨んでいきたいと思います。ご家庭や地域でもいろいろな場面で子どもたちの規範意識を育んでいけるようにお声かけください。

◆読書・図書館関係に関することの項目について



本校が力を入れて取り組んでいる読書活動・図書館活用については、「進んで本を読んでいる。」という項目では、「よくできている。」と「大体出来ている。」と答えた割合が保護者の方が約41％、教職員が約93％、児童が約56％でした。このことから、学校では積極的に本を読む姿が見られるが、家庭においては、他にやること、例えば、ゲームやテレビ、習い事や学習などがあって読書をする時間が取りにくい子もいるように思います。また、自由記述から、本校の読書活動や学校図書館活用について肯定的なご意見をたくさんいただきました。また、本や図書館を活用し、調べることを通して、子ども自身が思考を深め、「わかった!」という体験を積み重ねられるような取組を進めたいと思います。ご家庭でも「よし、調べてみよう!」という経験をさせていただけたらありがたいです。

お礼と今後に向けて・・・

今回も多くのご意見、ありがとうございました。PTA活動に関してもお聞きしましたが、活動内容を知っているという項目では約63％の方が「よくできている。」と「大体出来ている。」とのお答えをいただきました。今後もHP等でも活動の様子を適宜紹介していきます。また、全体を通して、行事や学習指導に対して温かい御意見をいただいたことは、教職員一同、大変励みになります。一方、個別に頂いたご意見等についても、引き続き改善を図っていききたいと思います。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、錦林教育をよりよいものにしていきたいと考えております。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。